

大倉喜八郎「大倉喜八郎書簡」

明治34（1901）年6

月28日

謹呈 ただいま 只今電話にて御示に

随ひ先方へ申通知 つかまつり 仕 候間、

明午前十一字頃山の手百六十

番館ヂヤクソン自宅へ

御尊臨被為在候様願 あらせられ

上候。 とりあえず 不取敢此段申上候。

尤 もつとも 同刻前御旅宿福

貴楼と存候間、同所迄

高島 こきんじ 小金治御迎ひに

可罷出候。 まかりいでるべく 草々敬具

六月二十八日

鶴彦

春 尊台

閣下